

～会議録抜粋～ 会議録より抜粋し、「一問一答形式に編集」したもので正式な会議録ではありません。

===平成25年第2回定例会 一般質問===

嶋野浩一朗議員

2 三世代同居の支援、推進について

【質問1回目】

○嶋野浩一朗議員 三世代同居の支援、推進につきましてお聞かせいただきたいというふうに思います。

今、いろいろな問題が社会全体にあるわけなんですけれども、その中で、例えば高齢者の孤立死、孤独死の問題、それからいわゆる乳幼児の虐待の問題、これらは早急に対応していかななくてはならない大きな問題だろうなというふうに思っているわけでございます。そういった問題の背景をたどっていくと、やはり一つには少子高齢化、それに伴った核家族化といったものもあるんじゃないかなというふうに思うわけなんですけれども、やはりこういったことを考えた場合に、三世代以上で同居するといったことの意義は非常に大きなものがあるんじゃないかなと。それを行政として推進していき、また支援をしていくといったことは、非常に的を射た取り組みになるんじゃないかなというふうに思っておりますけれども、この点具体的にどのようにお考えなのか、お聞きしたいと思います。

【質問1回目への答弁】

○乾市長公室長 三世代同居の支援、推進についてのご質問でございますが、人と人とのつながり、きずなの希薄化を要因の一つとして、孤立死や幼児虐待の増加など地域においてさまざまな課題が顕在化してきております。これら諸課題は地域コミュニティにおけるつながり、きずなの再生により共助によって未然に防げることもあろうかと思われま。地域コミュニティのつながり、きずなによる対応も重要でございますが、人が生活を営む中で一番小さなコミュニティは家族であり、家族におけるつながりが基本であり、最も大切なものであると考えております。特に三世代同居家族においては、家族間の支え合

い、知恵や経験の継承などにより対応できるものが多いのではないかと考えております。また、つながり、きずなは市政方針において今後4年間のまちづくりの基本理念として掲げられているところでございますが、三世代同居家族の場合、つながり、きずなの大切さは親の教育とともに身近で接する祖父母から教えを受け、一層身につくこともあろうかと考えております。

このように、三世代同居の大切さ、重要性を踏まえますと、三世代で同居することを考えられている市民に対し、何らかの形で公的な支援を行うことは意義があるのではないかと考えております。三世代同居の支援、推進について、他市の状況を見ますと、住宅の改築費用や引っ越し費用を助成している事例や、同居のみならず、近隣に居住する場合も助成対象としている事例があるなど、これからも地域コミュニティ活性化によるつながり、きずなの再生に取り組みとともに、他市の事例も参考としながら三世代同居の支援策を研究してまいりたいと考えております。

【質問2回目】

○嶋野浩一朗議員 三世代の同居の話でございますけれども、先ほど申し上げました高齢者の孤立死、孤独死、あるいは乳幼児の虐待、それとまた虐待に至らなくとも、子育てでいろいろと悩んでおられるというような方がたくさんおられると思うんですよ。今まではそういうことについて、地域の力を強くして取り組んでいきたいと思いますという方向だったと思います。そこについては異論はないんですけども、ただ、よく考えてみると、大前提としてやはり家庭の力というんでしょうか、家族のきずなといったものがやはりその根底にあるべきなのかなというふうに思っております。それを促すという意味で、先ほど申し上

～会議録抜粋～ 会議録より抜粋し、「一問一答形式に編集」したもので正式な会議録ではありません。

===平成25年第2回定例会 一般質問===

嶋野浩一朗議員

2 三世代同居の支援、推進について

げましたけれども、三世代以上で同居する家を新築する、あるいは改築するという場合には、その一部を助成しましょうとか、あるいは実際にもう住んでおられますよと言われる方については住民税を一部減免するとかいうような形で、これは推進をしていていただきたいなと思っておりますので、今後ともご検討のほどよろしくお願ひしたいと思います。

【質問2回目への答弁】

○野口博議員 嶋野議員の質問の中で、三世代同居支援推進という問題について、市長公室長が同居した場合に増改築だとか、用途について検討するとおっしゃいました。先ほど生活環境部長は私の住宅リフォーム助成について、個人の資産形成になるから検討しないとおっしゃったんだけど、この辺のすれ違いといいますか、若干調整していただいて、ご答弁をお願いいたします。

【質問3回目】

乾市長公室長 私は嶋野議員のご質問を受けて、孤立とか虐待の防止等について家族を大切に、特に多世代、核家族よりも多世代の同居の家族を支援していくのが、そういう孤独死や虐待などの解消につながっていくのではないかと、だから住宅の改築や引っ越し費用などの助成、そういったことをされてはどうかという趣旨のご質問をされたというふうに認識をしております。

私も近年、孤独死といいますが孤立死というようなものがテレビでも取り上げられて、非常に話題になりました。私公務員といたしまして、何かやっぱり孤立死を未然に防ぐ、あるいは抑制していく方法はないかというようなことも考えておりました。そういう中で今回、嶋野議員がこういった多世代同居支援をおっしゃいましたので、私は一瞬はっとしまして、なるほどというふうに思いました。

そのためご答弁で近隣市の支援している例もあるというふうに聞いておりましたので、今後は直ちに支援をしていくということでは、そこまでは至りませんが、十分嶋野議員の提案は研究に値するというふうに考えましたので、研究させていただきたいというふうにご答弁申し上げたところでございます。

○野口博議員 市長公室長が研究したいという言葉を使いました。生活環境部長は検討もしないと、いわゆる個人資産にかかわる種別であり、そうなりますと。それに対して違うご答弁なさっているのですね、調整してご答弁いただきたいというのが僕の議事進行の趣旨ですので、そんなに長くなりません、若干調整いただいて、後ほど検討しますという答弁に修正できればそれでいいと思いますので、よろしく議長、お願いいたします。

【質問3回目への答弁】

○杉本生活環境部長 住宅リフォームにつきましては、私ども先ほど野口議員のご質問の中でございましたのは、リフォームによる市内商工業者であるとかの経営の一助になるとかいうことでありましたので、これは我々としてはやる予定はしておりませんというお答えは確かにいたしました。

ただし、先ほどは申しておりませんが、住宅の施策、例えばリフォームでございますが、現状、介護保険や身体障害者等の住宅改修の助成であるとか、さまざまな助成措置が組まれているのは、これは事実でございます。これについて申し上げますと、我々、先ほど市長公室長の答弁の中にもございました、三世代同居という一つの目的を達成するための手段としてのリフォームということであれば、これは検討に値すると考えていいのではないかと思います。私が答弁いたしました現在考えておりませんというのは、一般的に全世帯

～会議録抜粋～ 会議録より抜粋し、「一問一答形式に編集」したもので正式な会議録ではありません。

===平成25年第2回定例会 一般質問===

嶋野浩一朗議員

2 三世代同居の支援、推進について

を対象にリフォームされることに対してそれを市内の商工業者を使うことによって景気浮揚というか、そういう目的で利用するというのではないということでございますので、若干市長公室長が答弁されたこととは、私のしれないと言った意味合いは違うと思いますので、その辺はご理解いただきたいと思います。